新書紹介

久米島物語
～挑戦する地方創生実現モデル～

A5 判横組上製　全 440 頁

久米島は，沖縄本島の西方約 100 ㎞離れたところに位置し，島の人口は約 8,000 名で，農業，水産業，観光業などの産業が盛んで，久米島紬も伝承され，東洋一といわれるバリアリーフを有する非常に美しい島である。離島である久米島は，水が豊富で住みやすい環境にある。しかし，現実には離島であるが故に，人口減少に歯止めがきかない現状もあった。

そこに，海洋深層水が島に大きな夢をもたらし，島はその夢を現実のモノとして新しい大規模な職場を生み出しつつあった。海洋温度差発電によるエネルギーの確保や深層水を複合利用した新しい産業の創出によって，島に大きな可能性の扉が開いてきたのである。

本書では久米島を題材にして，自然，エネルギー，農業や水産業等の産業，伝統工芸，文化など幅広い分野について，「久米島まるごと教材作成プロジェクト」と称して島民にインタビューして，地方創生のケース教材としても利用できるように著した。教材は，久米島の学校教育で利用できるほか，全国的にも，学校教育から生涯学習まで利用可能である。

本書は２部構成とした。第Ⅰ部は，島を訪ねて話を伺って調べて，第１章から第６章に，久米島の概略，産業（農業，水産業，酒造等），海洋深層水の利用，歴史・文化，観光資源について観たもの聞いたものなどを著者らなりにまとめて執筆した。第Ⅱ部は「インタビュー編」で，第 7 章から第 16 章にインタビューを書き起しものを整理して示した。本書は，全国各地で地方創生の教育教材例にもなりうるので，各地域特有の教材作成の見本になれば幸いである。

― 目　次 ―

【第Ⅰ部　久米島を訪ねて】

第１章　久米島の概略

1.1 地勢　1.2 交通　1.3 海洋・沿岸域　1.4 地形と交通　1.5 島めぐり
1.6 赤土流出に伴う環境問題　1.7 クメジマボタルとキクザトサワヘビ

第２章　久米島の産業

2.1 農業　2.2 水産業　2.3 沖縄が生んだ酒，泡盛　2.4 久米島紬（伝統工芸）

第３章 海洋深層水の利用効果

3.1 海洋深層水の研究　3.2 新しい産業の創出

第４章　久米島の歴史・文化
4.1 久米島の成り立ち　4.2 下地原洞穴　4.3 久米島の歴史　4.4 久米島の文化
4.5 久米島の文化芸能

第５章 久米島の観光資源
5.1 久米島の浜　5.2 比屋定バンタ　5.3 ヤジャーガマ（鍾乳洞）　5.4 岩石　5.5 樹木
5.6 公共施設　5.7 カンジンダム（地下ダム）

第６章　沖縄で神様と呼ばれた男と鳥島集落
6.1 島ごと移住大計画　6.2 生い立ち　6.3 鍋島直彬公県令赴任時の沖縄　6.4 沖縄での生活
6.5 沖縄で成した功績　6.6 久米島の鳥島集落を訪ねて

【第Ⅱ部　インタビュー】
第７章　久米島役場を訪ねて　ー久米島モデル構想ー
7.1 大田治雄久米島町長の話　7.2 町役場プロジェクト

第８章　久米島の農業と水産業
8.1 久米島の農業と水産業全般について　8.2 久米島製糖工場　8.3 モズクの養殖と加工

第９章　海洋深層水の利用産業
9.1 沖縄県海洋深層水研究所　9.2 深層水を使ったホウレンソウ
9.3 クルマエビ養殖　9.4 海ブドウ養殖　9.5 牡蠣養殖事業　9.6 化粧品メーカー

第 10 章　海洋温度差発電施設
10.1 佐賀大学海洋温度差発電施設の説明　10.2 海洋温度差発電施設の案内
10.3 海洋エネルギー研究センター久米島サテライト　10.4 質疑応答

第 11 章　泡盛酒造
11.1 久米島の久米仙　11.2 久米島の久米仙工場案内　11.3 米島酒造場案内　11.4 米島酒造

第 12 章　久米島紬
12.1 久米島紬　12.2 久米島紬の里 ユイマール館

第 13 章 観光
13.1 久米島にようこそ　13.2 ハテの浜

第 14 章　久米島の自然と文化と風習
14.1 久米島の文化，風習　14.2 チンベーさんを訪ねて
14.3 久米島の自然と人々　14.4 ニブチの森散策

第 15 章　久米島の民俗芸能
15.1 民俗芸能　15.2 久米島の文化

第 16 章　沖縄の近代化を図った佐賀県人「第 11 代齋藤用之助」
16.1 功績の概略　16.2 第 11 代齋藤用之助の履歴（生誕から 20 歳の頃まで）
16.3 鍋島直彬公と沖縄に渡った佐賀県人　16.4 11 代の主な動き　16.5 個別の業績
16.6 退任に際して　16.7 11 代の系譜　16.8 殉死（追い腹）　16.9 その他